

夏結城紬の試作

塚原 文男* 遠井 光子*

1. 緒 言

きもの業界は高級化、フォーマル化の流れの中で、カジュアルきものにとっては、年々減少傾向を続け、厳しい状況にある。産地としても需要回復のため、消費動向にマッチしたオリジナル商品、セミフォーマル商品等の開発に力を入れている。そこで、本年度は、いしげ結城紬の新商品として夏向き着尺の試作を行った。

2. 内 容

2.1 試作材料

(1) 経糸は、市販されている生糸の中から、42 中 / 4 本の糸を使用し、化学処理によりセリシンを定着させた。

(2) 緯糸は、2 分の 1 は経糸と同じ糸で、セリシン定着した糸を使用した。あとの 2 分の 1 は真綿手紡糸 140 デニールに撚りを加えて使用した。

3. 製 織

上記の試作材料で試織を行った。緯糸は、化学加工した生糸と撚加工した真綿手紡糸を交互に織りこんだ。

製織条件は次の通り。

組織・・・平織

一羽の引き込み数・・・2 本

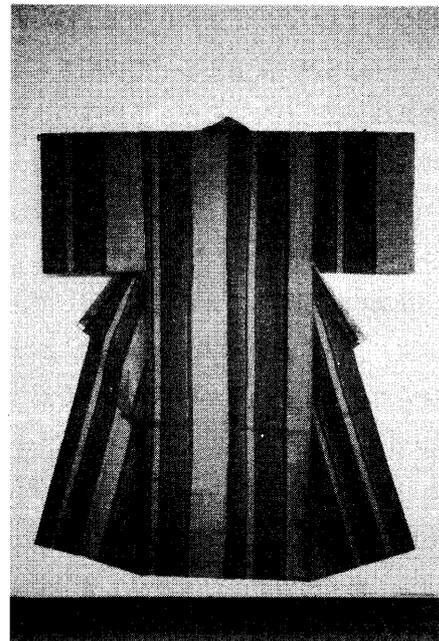
おさ密度・・・63 羽 / 寸間

緯糸の打ち込み数・・・90 本 / 寸間

4. 結 果

夏のきものとして要求される清涼感としゃり感が、生糸の化学加工により出すことができた。また、真綿手紡糸の撚加工により、生地に節が出て高級品の感じが得られた。

この試作品は全国繊維技術展に出品し、工業技術院繊維高分子材料研究所長賞を授賞した。



試織した夏結城紬

* 繊維工業指導所染色部 * * 繊維工業指導所編織部